

C17a 国立天文台天文ミュージアム構想

大島紀夫（国立天文台）

国立天文台天文情報センターでは、かねてより「天文博物館」構想を検討してきた。しかし、天文情報専門委員会、博物館構想小委員会などで多角的に議論いただいた結果、従来の構想は時期尚早との結論をいただき、構想を一新し、新たに「天文ミュージアム」として検討を進めることとした。その基本的な構想は、最新の天文学を中心に、その情報、成果の展示を重点に、最新の手法も用いることを構築する。

さらに最新に繋がるように、過去に使われてきた観測装置、資料などを系統づけて展示するために、収集、保存の重要性を再認識し、活動に当たる。また、体制を一新し従来のアーカイブ室をミュージアム検討室とし、三鷹地区の施設公開事業を集約し、一体化して行うこととした。

このため、施設公開、カタログ作成など担当の細分化を行い、職員の増強を行った。具体的整備としては、収蔵品目録の作成、ガイドツアー用冊子の製作、障害者向けサービスの拡充、天文機器資料館、太陽塔望遠鏡分光器資料館などの展示品耐震対策、湿度対策、太陽塔望遠鏡の復元作業、ブラッシャー乾板デジタル化を行いWeb公開を行った。また、レプソルド子午儀室、などの計7件が今年度、登録有形文化財として答申を受け、国立天文台としては合計で10件の登録有形文化財となる。水沢 VLBI 観測所、野辺山観測所とも検討を進めており、これらの活動について報告する。